

生命科学（化学）

学術論文

- 1) 三島満雄：再生型および超再生型 NQR スペクトロメーターのための周波数マーカー．島根大学医学部紀要 27, 7-13, 2005
- 2) Mishima M: Molecular Geometry of SnCl₄·DME Based on ³⁵Cl NQR Zeeman Effect. Bulletin of Shimane University Faculty of Medicine 28, 1-6, 2005
- 3) 吉田正人：含フッ素ラジカルの創出と合成反応への展開．有機合成化学協会誌 63, 879-887, 2005
- 4) 吉田正人：活性酸素・フリーラジカルの化学（生涯教育講座）．島根医学 26, 7-14, 2006
- 5) Yoshida H, Iizuka M, Narita T, Nakano N, Norioka S: Cloning and Sequencing of cDNA and Genomic DNA Encoding PDM Phosphatase of *Fusarium moniliforme*. Journal of Biochemistry 140, 813-823, 2006

学会発表

- 1) 吉田正人：有機相・フルオラス相の二相系を反応場とした光触媒によるフルオロアルキル化．特定領域研究「光機能界面の学理と技術」第 3 回研究成果公開シンポジウム．横浜，2005 年 1 月
- 2) 吉田正人，飯塚真理，福島正充：酸化チタン存在下でのフルオロアルキル化反応におけるアルコールの添加効果．日本化学会第 85 春季年会．横浜，2005 年 3 月
- 3) 齋尾佳秀，大越雅典，堀野 健，三宅由寛，伊与田正彦，吉田正人：スタランド類似構造をもつ含フッ素環状化合物の合成．日本化学会第 85 春季年会．横浜，2005 年 3 月
- 4) Yoshida M, Iizuka M, Fukushima S: Novel Preparation of Fluorinated Olefins Using Titanium Oxide as a Photocatalysis. 17th International Symposium on Fluorine Chemistry. Shanghai, July, 2005.
- 5) 吉田正人：ラジカル反応を用いた含フッ素化合物合成の新展開．有機合成化学協会若手研究者のためのセミナー．出雲，2005 年 9 月
- 6) 飯塚真理，福島正充，吉田正人：光触媒酸化チタンを用いたフルオロアルキル化オレフィンおよびケトンの新規合成．2005 年光化学討論会．福岡，2005 年 9 月
- 7) 吉田正人：光触媒上での一電子酸化還元を利用した新規炭素-炭素結合生成反応の開発．特定領域研究「光機能界面の学理と技術」第 4 回研究成果公開シンポジウム．横浜，2006 年 1 月
- 8) 飯塚真理，福島正充，吉田正人：酸化チタン存在下でのヨウ化フルオロアルキルと α -メチルスチレンとの反応・フルオロアルキル化オレフィンとケトンの選択的合成．日本化学会第 86 春季年会．船橋，2006 年 3 月
- 9) Yoshida M, Iizuka M: Titanium Oxide as a Photocatalyst for Perfluoroalkylation . 21st

IUPAC Symposium on Photochemistry. Kyoto, April 2006

- 10) Yoshida M, Iizuka M : Novel Method for the Synthesis of Fluoroalkylated Compounds using Redox Systems .18th International Symposium on Fluorine Chemistry. Bremen, July 2006
- 11) 飯塚真理, 福島正充, 吉田正人 : 酸化チタンを光触媒としたヨウ化フルオロアルキルの一電子還元 . 第 18 回基礎有機化学連合討論会, 福岡, 2006 年 9 月
- 12) 飯塚真理, 福島正充, 吉田正人 : ヨウ化フルオロアルキルを用いた有機フッ素化合物合成のための新規酸化-還元系の構築. 第 30 回フッ素化学討論会 鳥取, 2006 年 11 月